



年報 No.10 1999.6



蒲郡マリンライオンズクラブ

— 年報目次 —

挨拶 会長	L河井 勤	1	
挨拶 幹事	L鈴木 孟 2RLCIF 委員	L山本四十三	2
挨拶 次年度会長	L小田 昭男	3	
挨拶 次年度幹事	L平野 優 次年度会計	L三浦雅敏	4
アクティビティ	5		
特別活動報告			
夏期家族会・ふれあい運動会	6		
交通安全キャンペーン・クリスマス家族会	7		
例会活動報告	8～19		
趣味部会			
ゴルフ部会	20		
放談部会	21		
釣り部会・パソコン部会	22		
麻雀部会・カルチャー部会	23		
役員・委員会組織	24～25		
事務局日誌	26～31		
出席表	32～35		
年間出席率	36		
会員紹介	39～60		
編集後記	62		



一年を顧みて

会長

L 河井 勤

月日の経つのは早いもので早くも本年度の回想記を書くことになってしまいました。早速ペンは持ちましたものの思うことが余りにも多く困りますが、その中でも今まで常に私の精神的支えとなって下さった国際会長ハバナナンダ^Lと地区ガバナー林孝^Lの事から先ず感謝の意をこめ書かせて戴きます。

実は年度当初、創立10周年に相応しく「英知と汗で更なる飛躍の年」とスローガンは定めたものの、会長としてクラブ運営の基本に何を置くかに迷いに迷いました。幸いその頃前後して戴いたのが両^Lのライオンズの心得のご提言だったのです。まさに目から鱗の落ちた思いで決めたのが「明るい活発な例会とその為の練り上げた議題の作成」で、例会こそ全アクティビティの出発点と考えました。そのアクティビティに情熱を持って参加する事がクオリティの向上の機にもなるのだとも考えました。私自身も例会毎の挨拶の基底に先達両^Lの提言を置きました。幸いにも私どもの取り組んだアクティビティは周囲の好評を戴き成功を収めましたが、その成功は又私たちに「奉仕は人の為のみならず」という事を教えてくれました。事実昨年10月のつづじ寮の合同運動会に参加し、寮生と一体となって取り組む教師の行動から真の教育の姿、原点とも言うべきものをこの目で見、この胸にしかと留めさせられました。その事は又参加することを強調される国際会長の信念の正しさの証明でもあるのです。又先達たる両^Lは共に家庭平和の重要性を述べられます。私どもクリスマスも家族会などを実施し、共ども楽しい一時を過し、同時に私どもの活動の理解をもして戴きました。それとは別にライオンズクラブに身を置く幸福を感じたこともあります。それは観月茶会なる風流な催しにも招待され、日頃の世俗から離れ心の洗濯も出来、学ぶ点も多々あったのです。こうした行事の中でも特筆すべきは、昨年より準備検討を重ねた私どもクラブの創立10周年記念の式典を去る4月17日に挙行し、市長鈴木克昌様、地区ガバナー林孝^Lを始めご来賓、関係クラブの大勢の方々のご参加を得て盛大に終えることが出来、新たにクラブの歴史の1頁を飾りました。思いますにこうした歴史は私どもが常に、「井戸を掘った人の苦労を忘れず」加えて「受けた美田を更に耕し倉廩を満たす」努力精進を重ねることで益々発展し続くものなのです。

記したいことはまだ数多くありますが、紙面の制限もあり、ために意を十分尽くせません。ただ最後になりましたがここに1年間戴いた皆様の温いご協力とご助言に満腔の謝意を申しあげ筆を置かせていただきます。



充実した一年

幹事

L 鈴木 孟

幹事という大役を仰せつかって、間もなく一年、その役目もあと2か月半で終わろうとしています。いや、まだ2か月以上、ホッとした気持ちにはほど遠いですが、この一年間を反省してみると、幹事として様々な行事のお手伝いをさせて戴き、大変でしたが沢山のことを学ぶ事が出来ました。

多くの出来事に出くわして、あれこれと心配もし、それが無事に終わって、心配した分、満足感を得る事が出来たことは幸せでした。様々な事業にも関わりが深かっただけ、充実感を得る事が出来たと思っております。また、会長初め、皆様個人個人とより深く御付き合いの出来たことも、私にとっては良き財産になったと喜んでいます。

ただ、途中、病欠で皆様に大変なご迷惑を掛けてしまったことをお詫びすると共に、一年間の拙い幹事へのご協力に心から感謝申し上げます。



ごあいさつ

2RLCIF 委員

L 山本 四十三

昨年七月、LCIFのリジョン委員をL.鈴木殖夫の要請の下引き受け、早一年が過ぎようとしています。当初、困惑の連続ではありました。会員の皆様の協力の下、無事終えようとしています。この間、友情とは、和とは何であるか考え、悩み勉強させて頂き、自分なりに結論を得たように思います。

また、他のクラブの会員の皆様と友達になれたことは、私の一生の財産であります。

最後に、この一年を通して自分に言い聞かせ実践できなかった一言「怒りから己自身を抑制するには、人が怒っているのを冷静に観察することである。」この事をこれからも想い筆を置きます。

この一年、誠にありがとうございました。



次期会長としての自覚

次年度会長

L 小田 昭男

私共蒲郡マリンライオンズクラブも創立10周年も盛大の内無事に終り、さらなるビジョンを求める11年目の節目をめざし、低迷する経済状況の中で次期会長の大役を仰せつかり、不安と緊張の毎日でした。

さて、次期の役員組織も二転三転し5月にやっと決まり、又ライオンズ国際協会334-A地区のスローガンとして「守ろう環境、続けようウィサーブ」も決まりました。私達クラブも信頼と調和のとれた運営、特に環境関連のアクティビティを考え、この厳しい経済の中無駄の無いクラブ運営を行い、各委員長の基に活発なる発言を戴き、私共ライオンズマンが全員でウィサーブをモットーに社会福祉に、青少年の健全育成に、特に環境保全について資源のリサイクル等色々問題も多く、また地球温暖化のため水不足がおき、生活にも不自由な事が多くおきています。

「守ろう緑の森を」、次世代に自然を残すためにメンバー一人ひとりが切磋琢磨をし、楽しいウィサーブに向い鋭意努力し次期会長として一年間を頑張り、少しでも皆様に貢献出来れば幸いです。



幹事役を受けるにあたり

次年度幹事

L 平野 優

幹事を受けることにあたり、幹事とは？ その役割は何か？ どうすれば良いのか？ 色々な思いが飛び交いました。そこで年報を開き、各年次の幹事さんの言葉を拾い読みました。そこには、「幹事とは、クラブの取りまとめ。裏方、番頭役、世話役。会長の基本方針に従って行なう。」等々色々な助言が載っていました。さらに必携を見ると、「幹事は会長および理事会の指揮監督のもとに…」など書かれていました。これを読み、私に幹事役が勤まるのか大変不安になりました。ただ昨年度10周年記念事業や式典を会員が一丸となって無事遂行できました。この力を私に貸していただければ、何とか一年間無事できるかもしれません。なにとぞ、会員の皆様、先輩幹事の皆様、ご協力、ご助言をお願い申し上げます。



引き続き会計の指名を受けて

次年度会計

L 三浦 雅敏

この1年間、会計という立場でライオンズクラブの活動にたずさわりました。

我がクラブは、さいわいなことに事務局がありますので、実際のお金の出し入れは全部事務局でやってくれますので、会計は出入を確認し印鑑を押すだけですみます。事務局のないクラブでは、会計がクラブの全財産を預り管理をするため会計を引き受けるについてはクラブへ担保を提出するところもあるようです。事務局のないクラブの会計は大変であろうと思います。昨年5月、三役セミナーで会計について言わたることはただ一つ、「会計は理事会で決定されたこと以外は絶対に出金の印を押してはならない。」ということでした。理事会を最高の決定機関と位置づけ、それ以外の出金要請には応じないことが会計の一番大切な役目です。

今年度又会計の指名を受け、会計という役目を通じて会の為になるよう努力したいと思います。